

1 「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示

＜テーマ＞生徒の前時の振り返りから、本時のめあてや課題につなげる取組
 (丸森町立丸森中学校)

1 取組の概要

本校では、授業の最後に本時の振り返りを行う際、本時のめあてに対し、自分はどのくらい達成できたのかを言語化(文章化)させるようになっている。そのとき、ただ単に「できた」「分かった」という感想にはさせず、「どこが重要な部分だったのか」「ポイントは何か」など、内容を具体的に書かせるようになっている。同様に「分からなかった」「できなかった」という感想にもせず、「ここまでは分かったけど、ここから先が分からなかった」「ここがなぜこうなるのか分からない」など、なんとなくモヤモヤしている部分も書かせるようになっている。そうすることで、次の時間の初めに理解が足りない部分を全体で確認したり、より効果的な例題で補足したりすることができる。中には、本時の学習内容から次時の内容につながるものに気付き、疑問を投げかけてくる場合もある。このように、生徒の中から出た疑問や課題を次時のめあてや課題にすることで、教師から与えられたものではなく、生徒発の自発的なものとして取り組むことができる。

本時のめあての達成度 (※)	1	2	3	4	5	!(^^)!
アピール						
年 組 番 氏名						

毎時間ごと配付し活用しているミニプリント

このように、生徒の学習意欲を高める学習課題として前時の振り返りを生かし、本時のめあてや課題につなげていくように意識した取組を行っている。

2 実際の例

① 証明問題で、授業で示さなかった方法で考えた生徒が、この方法でもいいのかと書いてきた。
 →次の時間に、「前の時間の証明をこのように考えた生徒がいました。この方法はいいかな？」と全体に投げかけ、別な見方や考え方に気付かせるきっかけと、前時の理解を深めることにも役立った。

② 三平方の定理の導入で、直角三角形のそれぞれの辺を一辺とする正方形の面積を求めさせた。本時のまとめ、振り返りをさせる中で、面積の関係(三平方の定理)に気付く生徒がおり、そのことをミニプリントでアピールしてきた。
 →次の時間に、「前の時間に、このような関係に気付いた生徒がいたのですが、そんなことがいえるのでしょうか。たまたまじゃないのかな?いつでもいえるのかな?」と投げかけ、どのような場合でも成り立つことを示すには文字を用いて証明を行う必要があることを引き出し、三平方の定理の証明につなげていくことができた。

③ 円周角の定理を学習した後の問題練習として、自主的にワークなどの問題を進める生徒がいる。その生徒の中に、右図のような半円の弧に対する円周角を利用する問題ができなかったという内容が書かれたものがあった。
 →次の時間に、「前の時間にこんな問題をやった生徒がいて、できないっていうのだけれど、みんなはどうか?」と投げかけ、個人やペアで考えさせた後に、中心角が180度になることに気付いた生徒に説明をさせた。そこから、直径と円周角の定理の学習につなげることができた。

